

講演 III

宮城県薬剤師会 たばこ対策委員会の取り組み ～禁煙支援から受動喫煙防止、そして地域連携へ～

宮城県薬剤師会たばこ対策委員会
熊谷朋久

【背景・目的】宮城県薬剤師会の禁煙活動は、2001年9月に「たばこ対策専門部会」を設置し、禁煙支援・指導薬剤師認定制度を創設したことから始まる。本年度で18年目の委員会活動となるが、タバコフリーの社会を目指すために、薬剤師の存在意義を明確に示し、薬剤師の専門性と独自性を発揮することが必要と考えている。この目的を達成するために、「たばこ対策委員会の取り組み」について、地域住民にとってよりニーズに合った禁煙支援となるよう、今回は過去数年間の活動内容をまとめて報告する。

【方法】委員会で毎年実施している活動「①禁煙支援・指導薬剤師養成研修会」、「②禁煙ウォーキング」、「③イベントでの禁煙啓発活動」の内容について、項目ごとに分析した。

【結果】「①禁煙支援・指導薬剤師養成研修会」は今年で17回目となるが、毎年一定数の受講者がいる。研修内容は、薬剤師が禁煙支援を行う上での基本となる「独自のテキストを用いての講義（ニコチン置換療法など）」、「薬物相互作用に関する講義」、「さまざまなケースを想定してのロールプレイ」については、研修会開始当初から変わっていない。一方で「PM2.5について」「受動喫煙に関して」、「加熱式たばこについて」など、時世のニーズに合わせたテーマをエビデンスに基づき最新の情報として提供してきた。

「②禁煙ウォーキング」は県民への禁煙アピールの一環として、世界禁煙デー・宮城フォーラム開催日に合わせて行った。年を追うごとに、その実施内容や県民への呼びかけに変化が見られた。「③イベントでの禁煙啓発活動」は仙台市内開催のイベントには、毎年委員会委員を中心に参加・支援している。各地区のイベントには当初は県薬からの委員を派遣することもあったが、各地区で認定薬剤師が活動するようになってからはスモーカーライザーやパネルを貸し出すことに留まっていた。この2年間は、喫煙率の高い石巻地区からの依頼で再び人的支援を行っている。また各地区からパネル内容の更新を求められ、「受動喫煙について」と「加熱式タバコについて」を各2枚ずつ、計4枚作製した。

【考察】地域住民に対し、十分な禁煙支援のサポートができるよう正しい知識、禁煙意思確認のアプローチから禁煙維持まで寄り添うコミュニケーションスキルを身につけ、様々な場面で実践することは薬剤師の存在意義を明確に示すことになる。また適宜、医師と薬剤師が連携することにより、より確実な禁煙支援を行うことが可能になると考える。

今後も、タバコフリーの社会を目指し、地区薬剤師会や他職種との連携を深め、情報を共有しながら禁煙支援に携わる方の裾野を広げられるよう取り組んでいく。